



杉並区

26.5.9
杉並区広報課

「上井草駅周辺地区まちづくり協議会」及び「井荻駅周辺地区まちづくり協議会」が区長に「まちづくり構想」を提案しました！

9日、西武新宿線の上井草駅周辺地区まちづくり協議会および井荻駅周辺地区まちづくり協議会の代表が区役所を訪れ、西武新宿線の連続立体交差事業を見据えて検討を重ねてきた両地区におけるまちづくり構想を、田中 良(たなか・りょう)区長に提案しました。今後、区は、基礎調査の実施や庁内の検討を重ね、当該地区の「まちづくり方針」を策定し、まちづくりを推進していきます。

上井草駅周辺地区や井荻駅周辺地区は、みどりやオープンスペースが多く、昭和初期の区画整理により良好な街区基盤が形成されています。一方で、踏切での交通渋滞や鉄道による地域分断、またバス通りにおける歩行者の安全面での課題もあります。さらに、平成20年には、西武新宿線の「野方駅～井荻駅区間」「井荻駅～東伏見駅区間」が東京都により鉄道立体化の事業候補区間に位置付けられました。こうした背景を踏まえ、平成23年9月、各駅周辺のそれぞれのまちのあるべき姿を検討するため、「上井草駅周辺地区まちづくり協議会」、「井荻駅周辺地区まちづくり協議会」が発足しました。

9日、午前10時に上井草駅周辺地区まちづくり協議会の鈴木定雄会長ほか2名が、また11時には井荻駅周辺地区まちづくり協議会の井口哲次郎会長ほか3名が区役所を訪れ、田中良杉並区長に、約2年半にわたり検討を重ね、まとめあげた「まちづくり構想」を提案しました。どちらの協議会も60名～70名ほどの会員が、暮らしやすいまちをつくるために検討し、会員以外の地域住民へのアンケートを実施するなど、地域の意見も活かされた「まちづくり構想」としてまとめられています。

どちらの「まちづくり構想」も、まずは鉄道連続立体事業の早期実施が盛り込まれています。平成20年の東京都による事業候補の発表から現在まで、事業進展の動きはありませんが、まちづくりには地域を分断する鉄道と開かずの踏切の解消が何より必要であることを訴えました。このほか、上井草駅のまちづくり構想では、駅の南側にある区立上井草スポーツセンターや早稲田大学グラウンドがあるため、2020年東京オリンピック・パラリンピックにかかわるまちづくりなどについても提案されています。井荻駅のまちづくり構想では、井草森公園を活かした回遊性づくりや旧杉並中継所の有効活用など、地域資源を活かしたまちづくりが提案されています。

今後、区は、これらの「まちづくり構想」の趣旨を参考に、基礎調査を行い、庁内での検討を重ね、さらに地域の皆様の意見を聞いたうえで、上井草、井荻の各駅周辺地区の「まちづくり方針」を策定していきます。併せて、西武鉄道や東京都、隣接自治体と連携しながら、連続立体交差事業の早期実施に向けた取り組みを進めていきます。